



コルベ神父 友のためにささげたいのち

アウシュビッツ強制収容所で、逃亡成功の報復に餓死刑を宣告された若い父親の、身代わりを申し出たポーランド人のコルベ神父。協力を強要するナチスに屈せず、2度の逮捕と3度の強制収容所行きを経た、前代未聞の出来事だった。

愛によるこの殉教は、幼少からの47年にわたる信仰の歩み、神や神に取り次ぐ聖母、そして人々のための、修道会での愛をこめた熱心な奉仕や宣教の結実である。



アウシュビッツ強制収容所、解放から80年

千葉 茂樹 **著**

1933年福島市生まれ。

日本シナリオ作家協会会員。近代映画協会所属。映画監督、脚本家として多方面で活動。

映像作品に、『一粒の麦』(大映、文部省特選)、『こころの山脈』(東宝)、『孤島の太陽』(日活)、『マザー・テレサとその世界』(近代映画協会・女子パウロ会、各種映画賞受賞)、『コルベ神父の生涯－アウシュビッツ愛の奇跡－』(近代映画協会・女子パウロ会、第3回日本赤十字映画祭最優秀賞)他多数があり、また、マザー・テレサに関連する著書もある。

強制収容所でも、常に愛と祈りの人

若いときからの結核で苦しみ、やせ細っても食事を他の病人に分け、柔らかなベッドも辞退

(餓死刑の地下牢で)からだに力がある間は、みんなはコルベ神父といっしょに祈りを唱えたり、讃美歌を歌ったりしていました

明朝体の箇所は
本書からの引用
← 第四章 天国への道 → 終わりの章 わたしたちへのメッセージ

ポーランドや宣教先の長崎で取材

コルベ神父のおかげで餓死刑を免れた
ガイオニチェック氏の証言

コルベ神父さまは……祈りによって、
精神のうえで敵に勝ったのです

来日1か月で宣教用雑誌1万部を発行

コルベ神父は徹夜してラテン語で原稿執筆、
修道士も日本語ができないが、2号から活字拾い

やるのです。そのためになんか
につらくてもがんばるのです

明朝体の箇所は
本書からの引用
← 第三章 日本での働き → 第一章 幼年時代

赤と白の花冠、両方を選んだ少年時代

息子の行く末を案じる母の言葉が強く響き、
自分の将来を問う祈りが聞き入れられる

白い冠は神への純粹な信仰・純潔のしるし、
赤い冠は死をもって信仰を守る殉教者のしるし

児童書から一般向けに変更して文庫化。挿し絵なし。
ただし経年表記は刊行当時のまま

定価1,210円(本体1,100円+税) A6(文庫)判 192頁 ISBN 978-4-7896-0847-3 C0123 並製